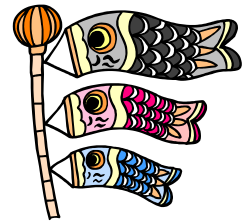




パモジヤ



～未来のきりん探しの旅に出よう！～

2005年5月号

今月の INDEX

- 1) タンザニア援助のツボ 「人間の安全保障」
- 2) 耳より！ JICA 研修情報
- 3) 事務所からのお知らせ
(援助情報、次長からのお知らせ、安全情報、協力隊関連、カリブ・クワヘリ)
- 4) 特集：クワヘリニ！ ～ JICA 新入職員研修を終えて～
- 5) 専門家・調査団等の予定 (別紙)

1) タンザニア援助のツボ

4月のツボ 「人間の安全保障 (Human Security)」 塩塚所員

JICA は 2004 年 3 月に「JICA 改革プラン」を発表し、JICA 改革の柱として「現場主義」「効果・効率性」「人間の安全保障」を挙げました。2003 年 8 月に閣議決定された新しい政府開発援助大綱 (新 ODA 大綱) でも、「人間の安全保障」の視点を取り入れた ODA の実施がうたわれています。今後の日本の援助の軸となるべき「人間の安全保障」についてご紹介します。

「人間の安全保障」とは

そもそも「人間の安全保障」が開発援助の世界に登場したのは、開発を取り巻く国内外の状況が変化したことによります。近年、経済のグローバル化と国際社会の相互依存がこれまでになく高まり、テロや環境破壊、HIV/AIDS など、国を超えた脅威と、内戦や犯罪などの国内の脅威による人権、人道上の危機が増大しています。これらに対応していくためには、従来の国単位の対応や国家の安全保障という枠組みだけでは不十分なのです。

そこで生まれたのが「人間の安全保障」の概念です。「人間の安全保障」とは、さまざまな脅威から人々を守るとともに (protection)、人々の能力を強化することを通じて (empowerment)、人々の生命、生活及び尊厳を守ろうというもの。94 年の「人間開発報告書」に登場して以来、多くの場で使われるようになり、03 年に「人間の安全保障委員会 (緒方貞子 / アマルティア・セン共同議長)」によって概念が整理されました。

JICA の挑戦 ～「現場主義」とともに～

とはいえ、「人間の安全保障」の概念は国内外でさまざまな意味で使われており、カバーする領域も広範です。また、これまでの JICA の事業とどこが違うのかといった声に代表されるように、実際にどのように JICA 事業に「人間の安全保障」を導入し、実践すればいいのか、関係者にはまだ戸惑いもあるようです。

JICA が考える「人間の安全保障」をふまえた援助とは、「人々に『届き』、『持続し』、『展開する』」ための、





「人々を中心に据えた」援助です。JICAはこれまでも、人々に確実に届く援助を目指して活動してきました。しかし、援助する側の制約や都合が優先されたことはないか、本当に困っている人々の元に援助が届いていないのではないか、という反省があることも事実です。

「人間の安全保障」は、必ずしも、これまでとまったく異なる新しい援助を意味しているわけではありません。「人々中心」という原点に立ち戻り、援助の制約を取り払って、「人々のため」に一番よいアプローチ、より大きなインパクトを目指したアプローチを柔軟に考えようということなのです。

JICA が作成した「七つの視点」は、事業実施に際して「人間の安全保障」の視点をどのように考慮するかをまとめたチェックリストです。ぜひ「七つの視点」を理解していただき、このうちの一つの視点からでも活動を見直してみてください。「自分の活動は人間の安全保障の範疇に入っていた」と考えるのではなく、「人間の安全保障」の視点を加えたときに、活動・事業にさらにどのような展開が必要になるのか、可能になるのかという姿勢で考えてみてください。

国や地域の状況によって、人々の求める援助は異なります。「人々中心」である「人間の安全保障」の実現には、マニュアルや正解はありません。地域のニーズや状況に合った、それぞれの「人間の安全保障」へのアプローチが必要です。これは、JICA 改革のもうひとつの柱である「現場主義」と密接につながっています。現場にいるみなさんからの発信、実践を通してこそ、「人間の安全保障」の姿が見えてくるのです。

七つの視点(チェックリスト)

1. 人々を中心に据え、人々に確実に届く援助か？(例:農業技術ではなく農民・農村の生活向上)
2. Protection だけでなく Empowerment も併せて目指す援助か？(人々は『開発の担い手』です)
3. 社会的に弱い立場にある(脆弱な)人々が裨益することを意識した援助か？
4. 「欠乏からの自由(貧困)」と「恐怖からの自由(紛争や疫病)」の双方を視野に入れた援助か？
5. 問題解決に向けて、必要な専門的知識を動員して(必要であれば複数の分野から)総合的に取り組む援助か？
6. 政府や地域社会など多様なレベルに働きかけ、持続的な発展に資する援助か？
7. ドナーや NGO など様々なアクターとの連携を図り、より大きなインパクトを目指す援助か？

事務所に「七つの視点」のより詳しいパンフレットや、関係者向け教材 CD「理解！実践！人間の安全保障」を置いてあります。ぜひご利用ください。

2) 耳より！ JICA 研修情報

現時点でタンザニア政府に候補者の募集をかけている、日本で行われる研修コースをリストアップします。カウンターパートに研修の機会を与える場になれば幸いです。なお、紙面の関係上、研修コース名と研修期間、応募締め切り日のみを記載しますので、詳細な情報が必要な方は事務所の川村もしくはムソフェまでご連絡ください。以下のコース以外でも研修に関して質問がある場合には、いつでもどうぞ。なお、研修に応募するためには、履歴書、健康診断書およびカントリーレポートの作成、その後人事院のスタンプをもらう等多くの作業と時間が要求されます。ですからなるべく余裕を持って連絡をいただくと助かります。

なお、留意点は以下のとおりです。

- ・ どのコースも基本的にはタンザニア政府の人が対象です(民間会社で働く人は対象になりません。一部のコースは NGO の参加も OK なものもあります)
- ・ どのコースにも応募にあたっての資格要件があります。この要件を満たさないと応募することはできません(特に年





年齢制限には要注意。

- ・ どのコースも1名(もしくは2名)の枠に対し、4~5名程度の応募がありますので、応募をしたからといって、受かる保証はありません。

現在募集中のコース(コース名、研修期間、応募締め切り日の順)

- ・ Distribution of Fisheries Products 8/15-10/27, 6/15
- ・ International Seminar on Taxation 8/30-11/12, 6/30
- ・ Domestic waste water treatment techniques 9/5-12/4, 6/3

帰国研修員同窓会(JATA)年次総会

川村所員

JICA の帰国研修員はタンザニアに何と約 2,200 人ありますが、帰国研修員同窓会(JICA Alumni Association of Tanzania, 通称 JATA)がタンザニアには存在し、希望者は帰国後にこの同窓会に加盟しています(2005.3.1 現在で950名が加盟)。同窓会の主な活動として帰国研修員同士の交流、日本とタンザニアの相互理解促進等を行っています。



JATA の1年の活動のハイライトが年次総会で、今回は4月1日に行われ、およそ60名の帰国研修員が参加しました。会場は久々の再会を楽しむ人、日本の話題で盛り上げる人等、なごやかなムードでした。また同窓会を運営していくにあたって、10名の幹事(任期3年)が重要な役割を果たしていますが、今回の年次総会では、現行幹事の任期満了に伴い、新幹事の選挙も併せて行われました。様々なポストに多くの人が立候補し、将来に向けた抱負を述べる姿に感動した JICA スタッフもいたとか。

ちなみに帰国研修員の多くは、非常に親日派で、JICA の事業を行うにあたっていつもいろいろと助けてもらっています。ものすごく貴重な人脈ですので、事務所としても今後も良い関係を保っていきたいと思っています。

ちなみにこんな人も帰国研修員という小ネタを披露したいと思います。テレビの国会中継でも良く見る国会議長(Speaker)の Mr. Pius Msekwa は 1983 年に JICA の研修で日本に行っています(当時はキリマンジャロ州の州知事でした)。国会議長は国会議員にも一目おかれるポストで、様々な議論が繰り広げられる国会の場をとりきっている人です。今度テレビで JICA ファミリーの一員としての彼をチェックしてみてください。

研修参加者の声 ~ 帰国研修員インタビュー ~

川村所員・山本所員

「アジア・アフリカ知識共創セミナー」という難しそうなタイトルのセミナーがあります。これは普通の研修とちょっと違って、日本だけではなくアジアでの研修とセットになっており、研修員がアジア(必ずしも日本だけではなく、他のアジアの国々も含む)から学べることをアフリカに取り入れることを目的としたコースです。今年は 3/22-4/6 (内 3/31-4/6 はタイでの研修)の日程で行われ、Ministry of Community Development, Gender and Children から2名のスタッフが参加し、4月18日に事務所で帰国報告を行いました。

日本とタイの農村におけるコミュニティ開発の経験から学ぶこのプログラム。参加した2名が一番関心を持ったカリキュラムは、地域にもともとある在来資源を使うアプローチの仕方です。研修期間中は、大分県の一村一品運動を視察する機会にも恵まれました。「あれを村と呼んでいいのか…」というぐらい、タンザニア人の2人にとってみると日本の農村とタンザニアの農村の発展の違いに驚いていましたが、もともとコミュニティにあるものの価値を見直すこと、比較優位性のある商品に特化し、資源を有効に使うことなどを学んだと語ってくれました。





タイでは国王が自ら率先して開発に貢献していたのが印象的だったそうです。国王のプライベート資金でつくられたミュージアムを訪れた彼らが目にしたのは、植物の種が成長して木になり、その実が人々の食べ物になり、その種がまた新たな植物を咲かせ、その根っこが水を蓄えるという、自然界に生きる植物の仕組みを説明したオブジェクト。タンザニア人は水がない、家畜に食べさせる草がないというのにも関わらず、植林の重要性を認識しておらず、政府も木々の大切さを国民に伝えられていないと話す言葉からは、今回の研修を通じてタンザニアの問題を再認識した様子が伺えました。

研修はまだ終わったわけではありません。日本・タイで学んだことをもとに、タンザニアで応用できる課題テーマを見つけ政策研究プロジェクトにすることが本来の目的です。トピックはまだ決まっていないようですが、隊員も多く派遣されている、オーク・ディベロップメント・カレッジやコミュニティ・ディベロップメント・ファシリテーターの人材育成を通じて、農村開発にアプローチしていくことを考えているようです。もしかすると、これが近い将来大きなプロジェクトに発展するかもしれませんね。

ちなみに 2 人とも日本ははじめてで、事前にブリーフィングは受けていたとは言えるものの、成田空港の巨大さにまずは圧倒され、街中ではタンザニアのいたるところに見られる制服警官がいないのにとっても驚いたそうです。日本人はとても親切にしてくれた、日本を理解できてとてもうれしいと語ってくれました。早咲きの桜とも出会え、とても良い滞在経験になったようです。

3) 事務所からのお知らせ



National Strategy for Growth and Reduction of Poverty (国家開発計画)の完成と全国発表

山内企画調査員

NSGRP(スワヒリ語で MKUKUTA)の最終ドラフトが 2 月 4 日に内閣で承認された後、教育、保健関係のデータやその他の修正が加えられ、とうとう最終版が完成したとの情報が入りました。以前の国家開発計画 (PRS)に対して国のオーナーシップが少なかったという反省から、この NSGRP 最終版について 4 月 16 日に国会議員に対しそのブリーフィングが行われました。5 月には NSGRP (MKUKUTA)の全国発表が行われる予定で、現在 JICA の支援で作成中の NSGRP 完全スワヒリ語訳と大衆版 (Popular version) (英語・スワヒリ語)の配布、プレスリリース、ラジオ、ウェブサイトでの発表などメディアやさまざまなコミュニケーションチャンネルを通じて広く国民に知らせる予定です。大衆版は簡易に NSGRP の内容を紹介するもので、完成しましたら、JICA 事務所に置く予定ですので、ぜひご覧ください。

NSGRP は今年 7 月から 5 年間 (~ 2009/10 まで)実施される予定で、現在この NSGRP に沿って来年度の予算が策定中です。新しい戦略の開始です。

次長からのお知らせ

木野本次長

1) Quiet Period の設定

当国財務省からドナーに向けて、4 月から 8 月を Quiet Period に設定するので協力して欲しいとの連絡がありました。Quiet Period (Quiet Time ともいう)とは、タンザニア政府が予算編成を行う期間については、調査団の派遣や二国間の協議をできるだけ減らして予算編成作業に専念したいとの理由から設定される期間のことで、援助の調和化の一つのアジェンダとして 2003 年から導入されたものです。ドナー側としては極力これに応えるようにしています。実際の運用については調査団の派遣が全く困難になるというものでは勿論ありません。JICA としては、これが導入された背景や必要性について理解の上、調査団の受入について政府に大きな負担とならないように配慮しています。





2) 当国公務員の日当(DSA)の単価の改訂

昨年の8月以降、タンザニア政府職員向けの日当の単価の改訂が検討されています。ドナーが政府職員の旅費を負担する場合、これを単価として用いることになっているため、ドナー側としてもこの改訂については大きな関心を持っており、政府に対しても協調して折衝していくこととなっています。先日、大統領府より単価を引き上げるとの通知が各省庁に出された模様ですが、ドナー側としてはこれに対してその理由、背景について文書で照会を行っているところで、これを受け入れるとの結論には今のところ達していません。ですので、配属先などから新しい単価での日当の支給を要求された場合には、JICAとしてはドナーの一員として共同歩調をとることとしているがドナー側がこれを受け入れるに至っていない旨お答えいただくか、当事務所宛に対応を照会するよう伝えていただければと思います。

今月の危機管理上の特記事項

小林所員

執筆猶予期間が短かったため、犯罪被害報告はありませんでした。

さて、5月26日から本部安全管理チームから**安全対策巡回指導調査団**が当国に派遣されることになりました。本調査団の目的は、タンザニア国内の一般的な治安状況の情報を収集するとともに、いくつかの関係者の自宅を実際に検分して具体的な安全対策を提言することです。ダレサラームのほかに、ザンジバル、タンガ、モシ、アルーシャに訪問していただくことを考えています。また、調査団訪問中に安全対策セミナーを開催しようと考えておりますので、また日時が決まり次第お知らせいたします。

さて、**選挙関連**ですが、4月中有権者登録に関する衝突が Unguja 島で断続的に発生しました。衝突の発生は局所的(有権者登録所周辺等)であり、市街地周辺というおおよそ観光客の足がむくようなところではないため、渡航制限などをかけることはありませんでしたが、これからも注意を喚起する必要があります。ザンジバル渡航の折に、ストーンタウンやダラジャニ市場つまりいわゆる観光エリア以外を散策される場合は、予め CCM 事務所、CUF 事務所、ザンジバル選挙委員会(ZEC)事務所など衝突現場となりそうなものがないかどうか確認するようお願いいたします。(他方で、観光エリアではすり・引たくりなどの一般犯罪に気をつけていただく必要があります。)

さてさて、有権者登録が終わり(執筆時ではダレサラームは無事に終了する見込み、ザンジバル市西部では期間の延長もありうるかも...)ますと、次の公式行事は選挙キャンペーンです。手元の情報によると8月21日に選挙運動が解禁になる見込みで、それ以降はまた政治集会とそれにとまなう局所的な衝突が発生する恐れが高くなります。

協力隊関連 「17年度春 短期隊員募集について」

真鍋調整員

平成16年度秋募集の結果が発表されたばかりですが、これから、平成17年度春募集に対するの応募が始まります。今回の春募集より、「**青年海外協力隊/シニア海外ボランティア短期派遣**」制度を新たに設置しました。この制度を通して、短期間の活動であれば参加できるという方にも応募していただくことを期待しています。短期隊員の応募では、応募者をAタイプとBタイプという、2つのカテゴリーに分けて募集しています。Aタイプの募集では、協力隊経験者のみが対象となり、長期ボランティアの活動を中継ぎしたり、活動環境の確認や整備を行います。Bタイプの募集では、協力隊未経験者でも対象となり、活動中の長期ボランティアを補完・支援する活動を行います。現在活動中の隊員の方で、後任を2年呼ぶには長すぎる。もしくは、あと1タームだけの派遣で十分といったような要望がある場合には、2年の派遣ではなく、短期隊員の派遣を検討されるのもよいかと思われます。後任要請や新規要請で、短期隊員にふさわしい内容の案件やアイデアをお持ちの方は、





是非、調整員までご連絡ください。

カリブ・クワヘリのご挨拶

奥山企画調査員より： 4月いっぱいタンザニアでの仕事を終えて、帰国することとなりました。私の仕事は、今タンザニアでの援助の大きなテーマである財政支援（政府予算への直接支援）やそれを支える政府の公共財政管理の仕組みなどに関するもので、JICAや外務省のタンザニアへの援助でも、最先端の分野でとてもいい経験と勉強をさせていただいたと思っています。次はどこでどのような形で仕事をするかはわかりませんが、きっとタンザニアでの3年間の経験は貴重なものとなるのではと思っています。仕事の内容から、あまり専門家や協力隊の方々と直接関連する仕事はなかったですが、めぐりめぐって、それぞれの援助や協力の現場に大きく関係がでてくることであるのも事実です。私の後任に本田企画調査員が赴任されました。JICA事務所は、今後とも機会をつくりタンザニアの援助協調の動向のひとつとして財政支援や公共財政管理についても皆さんへ発信していくことが必要と考えています。最後に初めてのアフリカ、タンザニアで無事に任期を終えることができましたのも、皆さんのお陰と妻ともども感謝しています。タンザニアに残られる皆様、どうぞ、ポレポレでじっくりとタンザニア生活を楽しんでください。

本田企画調査員より： 2月7日に着任しました本田 俊一郎と申します。現奥山企画調査員の後任として、事務所で2年間の予定にて勤務いたします。

過去のアフリカの経験としては、1994年から2001年まで計6年2ヶ月、西アフリカのガーナにて、日本大使館の専門調査員(3年)及びJICA事務所企画調査員(3年2ヶ月)として勤務していました。一方、東アフリカとはこれまであまり縁がなく、タンザニアはまったく初めてです。

担当する仕事は公共財政管理です。一見とつきにくい分野ですが、簡単に言えば、タンザニア政府(特に財務省)が、財政(お金)をきちんと管理し、さらにそのお金をうまく活用して保健や教育、農業といった公共サービスをより適切に進めていけるようお手伝いをしていくことです。その意味では、私の業務は、企画調査員、専門家やJOCVの皆さんの活動とも何らかの形で結びついていると言えるかと思います。

色々皆さんにご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、どうぞ宜しくお願い致します。

加藤所員より： 4/15に着任いたしました加藤と申します。長年憧れていたアフリカ大陸に足を踏み入れ、ここタンザニアの雄大な自然に感激しております。以前協力隊員として2年にわたり滞在したハンガリーでも、現地での生活・文化に溶け込み素晴らしい経験をすることができました。今回も積極的にタンザニア文化と接していくつもりです。いろいろな情報を提供してください。仕事に関しても最初は慣れないことが多く、戸惑うと思いますが、いち早く業務を吸収し、タンザニア事務所の一員としてしっかりと仕事ができるよう努めてまいります。宜しくお願いいたします。

4) 特集：クワヘリニ！ ～JICA 新人研修を終えて～

2004年10月よりJICAタンザニア事務所で職員OJT研修をして参りました塩塚と山本の2名がいよいよ帰国します。6ヶ月間、パモジャの編集委員、とても楽しくやらせていただきました。もっとやりたかった事、不十分だったことは私たちの心の中にもありますし、皆さんも読んでいて腑に落ちない部分もあったかと思います。その点に関しては反省しきりですが、ある程度私たちの好きなようにやらせてくれた所長・次長にまずは感謝、記事を書いていただいた方々にももっともっと感謝、そして何より読んでくれる方がいてこそこのニューズレターだったと思います。





文字通り、様々な方のご協力をいただいて、みんなで作りあげてきた「パモジャ」です。まだ終わったわけではないので、この「パモジャ」の理念が長い間続くように、日本より祈っています。本当にお世話になりました。皆様への感謝の気持ちを込めて...クワヘリのご挨拶です。

タンザニアあれこれ

(辛かったこと): キリマンジャロの1合目までの登山で、体力の限界点を感じた。1合目まではハイキングって聞いてたのに…。OJTって何？職員なのに研修生、自分の事務所での立場に悩んだことも。

(楽しんだこと): タンザニアの少ない食材を使ってどう日本料理を創作するか。タンザニアの変化に富む地形(寒いところ・あついついところ・険しい山・最高峰・動物が！)。1万ドルの景色を堪能できたと思います。何より途上国の現場を見れたこと、JICAで働く人々にお話を聞いたことが私のJICA人生の大きな大きな一歩となりました。

日本での配属先は JICA 兵庫センターです。そう！港の町神戸です。研修員受け入れや国内市民連携など、一番日本のコミュニティーに近い仕事です。(途上国の)人と(日本の)人をつなぐ JICA ならではの事業に深く関われることをとても嬉しく思っています。きっとそう遠くない未来の再会を祈って。いつでもカリブです。

山本 美奈子 Yamamoto.Minako@jica.go.jp

あっという間の6ヶ月でしたが、日本では決して学ぶことができないたくさんの方々のことを吸収させていただきました。心から、感謝の気持ちでいっぱいです。日本、タンザニアの多くの方々の地道な努力と熱意が集まって JICA の事業が進んでいることを実感し、自分は JICA 職員として何ができるか、タンザニアにとって開発とは何か、自問自答の日々でした。みなさんから教えていただいたこと、まだ自分なりに消化できていないこともあります。タンザニアでの出会いや経験を根っこにして、世界の人々のために、これからの業務に少しずつ反映させていくことで、みなさんにご恩返ししたいです。

次の(初めての「本」)配属先は、本部7階「社会開発部ガバナンス・ジェンダーチーム」です。新宿にお越しの際はぜひご連絡ください。チャイしましょう！

6ヶ月間本当にありがとうございました。お体に気をつけて、充実したタンザニアをお過ごしください。またお会いできるのを楽しみに楽しみにしています。

塩塚 美那子 Shiotsuka.Minako@jica.go.jp



ピース・ハート・プロジェクトにご協力ありがとうございました

事務所受付に貼られた大きなピース・ハート・フラワー、もうご存知ですね。パモジャ12月号でお知らせして以来、事務所に来られた様々な方々のメッセージが詰まった色とりどりのピース・ハートが花開きました。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。これらのメッセージはすでに東京本部に送付され、全世界からのメッセージとともに、JICA ホームページ





(www.jica.go.jp/peaceheart)に掲載されています。また、近々、「ピース・ハート・ブック」として 100 ヶ国語以上に訳されて、世界中の子どもたちに配られる予定です。今月号のパモジャではみなさんから頂いたユニークな珍回答・名回答を一足早くここでお披露目しちゃいます。笑うもよし、相槌を打つもよし。どうぞお楽しみください。

～みなさんが幸せを感じる時はどんなときですか？～

I am happy to be alive. The world is a beautiful place.	人と心が通じたなと思えたとき
NIMEPATA MLEMBO. When I get a beautiful lady.	「行かないで…」と言われたとき
I feel happy when JICA helps Tanzania.	水があるとき
When we feel the eternal friendship.	目が合ってふと笑顔で返されたとき
MOYON NILIFURAHU SANA KUONGEANA MPENZI. From bottom of my heart, I am very happy to talk with my girlfriend. 「以心伝心」	必要とされるとき 湯船につかれるって素敵！露天風呂で雪見酒ってサイコー！

タンザニア事務所では引き続きみなさまからのメッセージを募集しております。事務所に来られた際はぜひ一筆したためてみてください。メッセージは JICA のホームページからも投稿できます。

お知らせ： 来月号からの新しい編集委員は川村所員です。パモジャでは皆様からのご意見・ご感想をお待ちしています。皆様の役に立つ、楽しいニュースレターにしたいと思っておりますので、取り上げてほしい特集・リクエストなど、どしどし下記のメールアドレス宛、あるいは直接ご連絡ください。

Email address: Kawamura.Yasuyo@jica.go.jp

